



経済産業省「未来の教室」実証事業やEdTech導入補助金の好事例を配信するニュースレター／

# 未来の教室 通信

Standard

Vol. 20

GIGA スクール環境を活かして先生と生徒たちが EdTech を使って創る、「新しい学び方」のモデルをお届け！

Vol. 20

## 「探究中心」の新しい学びに向けた学校改革のカギとは？

専修大学北上  
高等学校



阿部伸校長



菊池広人さん

(学校改革アドバイザー)

普通科・商業科・自動車科という3つのコースで多様な進路をサポートし、部活動では運動部・文化部ともに強豪校としても知られる岩手県の専修大学北上高等学校(以下、専大北上高校)。一昨年、創立70周年を迎えるにあたって大胆な学校改革に着手し、今春からは「探究」に重点を置いた新たなコースを設置。生徒たち一人ひとりが自分らしい進路を実現するための「新しい学び」がスタートしました。



SENTAN DAY:教科横断・異学年で多様な学びを推進する総合的な探究をより深める時間として、1・2年生合同で行うプログラム。

### 「探究」がカリキュラム再編の起爆剤に

4年前に同校に着任した阿部伸校長は、改革に踏み切った背景を次のように語ります。

「28年間にわたる公立高校での教員生活を経て、『生徒が学ぶことを楽しいと感じ、先生も教えることが嬉しいと思える学校にしたい』という理想を持ってこの学校へ来ました。当初は急ぐつもりはなかったのですが、創立70周年、新校舎の建築、そして『探究』を重視する学習指導要領の改訂が重なり、大胆な改革に取り組むなら今しかないと思ったのです。」(阿部校長)

長年にわたり阿部校長が気になっていたのは、生徒たちの勉強に対する姿勢でした。多くの生徒が何のために学んでいるのかを考えると、指示された課題をこなすことが勉強だと信じて疑わず、目の前のテストをクリアす

ることに終始していたからです。

同様に部活動でも、「監督やコーチに指示されたことは頑張るが、自分で考えて動くという主体性が足りない」と感じていました。

**受け身の生徒を変えるには、学び方を変える必要がある**のではないかと。

そこで阿部校長は、「新学習指導要領の肝となる『探究』こそ、生徒一人ひとりが自ら考え、自ら答えをつくっていけるようなカリキュラムに再編するための起爆剤になる」と考えました。

**「詰め込み型の進学校と同じことをやっても意味がない。専大北上には多様な生徒がいて多様な学びがあり、そうした多様性を最大限活かせるのは『探究』を軸にしたカリキュラムなんじゃないかと。専大北上だからこそできる学び。そこから風穴を開けていきたいと思ったのです。」**

(阿部校長)

### 校長と教員の1on1「対話」、そして右腕としての改革アドバイザーの登用

改革を思い立った阿部校長がまず着手したのは、教員一人ひとりとの「対話」でした。

「主体性が足りないというのは、生徒たちだけではありません。私自身も長い教員生活の中で、突然上から一方的に『やれ』と言われたことを『おかしい』『なんでこんなことをやらないといけないんだ』と思うことがあっても、指示に従うしかありませんでした。改革を成功させるには、**どれだけ多くの人が主体的に関わってくるかが一番大事**なところなんです。幸いにも本校の教員は『学校をより良くしたい』という思いがあって協力的なので、スター

トラインでは教員一人ひとりが望んでいることを『対話』を通じて丁寧にくみ取りたいと思ったのです。」(阿部校長)

**校長ひとりが奮闘しても改革は進みません。実際に現場を回していくには、事務局の役割を担い、校長の片腕となる人材が必要**でしたが、多忙な教員に頼るのは難しい状況でした。

そこで阿部校長は、北上市の地域支援などを行うNPOで高校の探究の授業運営を手伝っていた菊池広人氏に声をかけ、**専任の学校改革アドバイザー(非常勤)**として登用することにしました。

## 教員同士の対話と教員自身の学びの場をつくる

校長と教員との対話を通じ、多くの教員から「**改革の軸となる『この学校をどうしていくか』という理念を学校全体で共有すべきだ**」という意見が挙がりました。

阿部校長は、「理念のようなものこそ、校長ひとりが勝手に考えて突然現場に落とし込むのではなく、教員全員の議論を蓄積しながらボトムアップでつくりあげたい」との思いから、「そのためには教員同士の対話の場も増やすべきだ」と考えました。ちょうどその頃、菊池氏も「学校改革を進めるには教員自身も学びを深めていく必要があるのに、校内での教員研修

## 『自分にもできることがある』という当事者意識が高まり、積極的に意見が上がってくるようになりました

菊池氏

の機会が少なすぎる」と感じていました。

そこで二人は教員同士が話しあい、学びあえる機会をつくろうと、毎月1回、多くの教員が集まる**職員会議と成績会議の時間を活用し、対話が生まれやすいワークショップ形式の研修会を設ける**ことにしました。

「研修会には、実際に学校改革を実現してきたロールモデルとして石川一郎先生(かえつ有明中学・高校や香里ヌヴェール学院など)や荒井優先生(札幌新陽高校)に講師をお願いしたこともありました。そうして毎月講師の方々から『一人ひとりが意識を持って変えようと思えば、いろんなチャレンジができる』といった話を聞いていくうちに、教員の間に『**自分にもできることがある**』という当事者意識が高まり、**積極的に意見が上がってくるようになりました。**」(菊池氏)

## 学校改革における最上位目標の共有

教員からの指摘の通り、学校には建学の精神はあるものの、それに基づく具体

的な学習目標などは決まっていませんでした。

そこで、卒業時にどんな力を身につけておいてほしいか(ディプロマ)、そのためには教科ごとにどんな力を伸ばしていくか(カリキュラム)、また、入試はどうあるべきか(アドミッション)という**3つのポリシーを策定しようと、教員全員でこれらの問いを改めて問い直し、月1回の研修会で議論**していくことになりました。

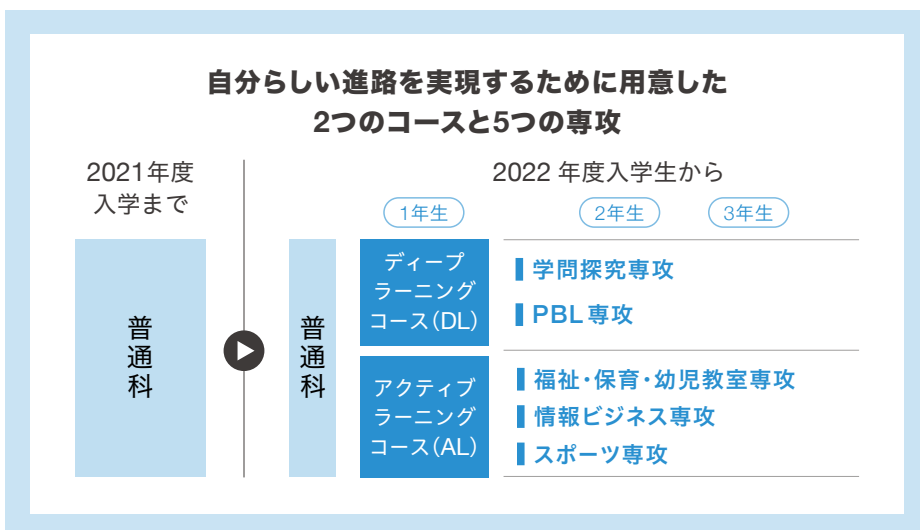
3つのポリシーを策定するための議論は概念的で難しいテーマも多く含まれていたものの、菊池氏が話しあったことをわかりやすく整理して論点をまとめ、研修会ごとにその資料を教員にフィードバックしていました。このフィードバックのおかげで教員同士が認識を共有しやすくなり、策定へのスピードアップだけでなく、教員間の改革へのモチベーションにも大きく貢献しました。 [▶詳細P3](#)

こうして教員全員でつくりあげた3つのポリシーが完成しました。

## 改革のスピードと現場の理解を両立するため「経営企画部」を設置

次に、3つのポリシーに基づき、どうやって3年間の学びを設計していくか。この点に関してさらに対話を重ねた結果、生徒一人ひとりの自分らしい進路を実現するため、普通科の中に2つのコースと5つの専攻という多様な選択肢を用意するなど、コース名や専攻を再編成することにしました。そして「**探究**」が週に5コマという**他校ではあまり類を見ない大胆なカリキュラムの改革**を行うことにしました。

[▶詳細P4](#)



一方そうした中で、組織の問題が浮き彫りになりました。改革を推進していく上では、教務・進路・入試など各部門の一体的な取組のほか、3つの学科の間でも「横」の連携が必要だとわかりました。

そこで阿部校長は、これらの組織を横断する「経営企画部」という組織を立ち上げることにしました。これは現場の実情をよく知るミドルリーダークラスによって構成され、授業の改善やICT環境の整備、Web出願やプレゼンテーション入試の導入といった入試の制度改革など、現場に合わせた実務的な改革を進めていく組織です。

「せっかく掲げた大きなビジョンを『絵に描いた餅』に終わらせないようにするには、現場に最も近い教員コミュニティでのリーダーシップは絶対に欠かせません。実際に今、校長と経営企画部、そして裏方を支える改革アドバイザーという三者

の協力体制が、改革のスピード感のある展開と現場への着地の両輪をうまく回してくれていると思います。」(菊池氏)

### 探究中心のカリキュラムの実現～専大北上の考える「探究」とは～

ディプロマポリシーに基づき、同校では3年間の学びを通じて伸ばすべき力を、「①自律 ②チャレンジ ③寛容性 ④コミュニケーション ⑤思考力 ⑥創造力 ⑦社会に対する当事者性 ⑧地域・世界の様々な課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力」という8つの力と定めました。教員は、各教科の特性を活かし、自分が担当する教科はどんな力を伸ばすのか。そのためには各学年で何をどの方法で学ばばよいかを検討して言語化し、1年かけてコツコツとシラバス(授業計画)をつくりあげました。

「この8つの力を定めた一番の目的は、

教員・生徒がそれぞれの教科・科目を『なぜ学ぶか』を共有することです。このシラバスを4月最初のオリエンテーションで活用し、生徒と『なぜ学ぶか』『どう学ぶか』を共有するのです。」(菊池氏)

ここで注目したいのは、同校ではあくまでも学びの土台は各教科であり、「探究」の時間はそこで学んだ知識や身につけた力の「コネクター」と捉えている点です。

「教員は各教科の専門家なので、その専門性を活かさない手はありません。自分の専門だからこそ、面白い授業が実現できる。だからまずはしっかりと各教科の授業でその教科を少しずつ深めていってもらえたら、それだけで十分学校は変わっていくはずですよ。」(阿部校長)

専大北上の考える新しい学びは、教科が土台となり、「探究」でその学びが他の学びや社会と繋がっていくのです。

## 専大北上高校3つのポリシー

### ① ディプロマポリシー (単位・卒業認定の判断基準)

本校は卒業所要単位を取得し、学修成果として次の能力を得られた者を卒業として認定します。

- ◆ 地域、そして世界のさまざまな課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力
- ◆ 多様な違いを尊重し、誰とでも繋がれる力
- ◆ 健全な心身のもと、自分の資質をより伸ばそうとする力
- ◆ 将来の夢の実現に向け、深く考え行動できる力

### ② カリキュラムポリシー (教育課程やその編成方針)

高校3年間ディプロマポリシーに基づく力を育てるために、以下の教育内容を実践します。

- ◆ 教科学習では、知識・技能に加え、その知識・技能を社会や世界に繋げる「未来を創る力」を高める授業を実践します
- ◆ 地域社会と有機的につながり、学んできたことを活用し、未知へ対峙する力を養います
- ◆ 様々な違いに対して、ICTを含めた知識・技術を活かし、それぞれが自分らしく学べる学修を行います
- ◆ 教育課程内・課程外を問わず、一人ひとりが常にチャレンジする機会を設け、よりよく生きるための挑戦を支援します
- ◆ 常に「自分軸」を大切に、自分らしいキャリアの実現に向けた支援を行います

### ③ アドミッションポリシー (入学希望者に対する募集方針)

本校はディプロマポリシーに基づく人材を育成するため、以下の姿勢を持つ生徒を入学者として認めます。

- ◆ 常に新しい知識や経験を得ようとする姿勢
- ◆ 身につけた知識や技術を活用し、地域・世界をよりよくしようとする姿勢
- ◆ 違いに対して偏見を持たず、様々な人と繋がろうとする姿勢
- ◆ 自らの理想をもち、その実現に向けて挑戦しようとする姿勢





## 時間割（普通科ディープラーニングコース PBL<sup>1</sup>専攻）

同校では、普通科の中に2つのコースと5つの専攻を用意。

2年生では、総合研究（探究）を週に5コマ設置し、大胆なカリキュラムの改革を実施。

その他の  
時間割は  
こちらのP7



1年生					2年生					3年生					
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
1	数Ⅰ	情報Ⅰ	現国	体育	数A	英コミュⅡ	物基	体育	英コミュⅡ	論理・表現Ⅱ	論理国語	数C	選:地歴・数Ⅲ	英コミュⅢ	英コミュⅢ
2	現国	英コミュⅠ	芸術	言語文化	体育	古典探究	論理・表現Ⅱ	英コミュⅡ	地理総合	古典探究	選:地歴・数Ⅲ	古典探究	論理国語	数B	数C
3	英コミュⅠ	生物基礎	数Ⅰ	論理・表現Ⅰ	生物基礎	生基	英コミュⅡ	歴史総合	数Ⅱ	歴史総合	選:日・世・化	選:日・世・化	選:理科・物・生	選:理科・物・生	選:英実・数Ⅲ
4	芸術	言語文化	英コミュⅠ	情報Ⅰ	論理・表現Ⅰ	地理総合	論理国語	論理国語	総合研究	物基	数B	選:理科・物・生	総合研究	選:日・世・化	選:日・世・化
5	体育	数Ⅰ	公共	英コミュⅠ	家庭基礎	数Ⅱ	総合研究	数Ⅱ	総合研究	数Ⅱ	選:理科・物・生	英コミュⅢ	総合研究	論理・表現Ⅲ	体育
6	公共	総合研究	保健	数A	家庭基礎	保健	総合研究	生基	総合研究	体育	英コミュⅢ	総合研究	総合研究	体育	論理・表現Ⅲ
7		LH					LH					LH			

1 Project Based Learning : 課題解決型学習

### 今後の展開～多様性を活かし、教科横断型へ～

シラバスのフォーマットは各教科共通で、2月、3月に行う教員ワークショップの中で、他教科の教員からも意見をもらいます。各自がそうやってシラバスのブラッシュアップをしていくうちに、教員の間では自然と教科を横断するようなアイデアも次々と挙がるようになりました。

「例えばグローバルビジネス科(旧:商業科)の生徒が地元の事業者から仕入れた商品を販売する『専北マルシェ』というイベントを、プロジェクト型の学び(PBL=Project Based Learning)として再定義し、マーケティングや簿記の授業と紐づけていく。あるいは、普通科の美術

と自動車科が共同で自動車のデザインをするといったアイデアも出ています。まずは教科で落ち着いて進められるところから進めていきながら、『未来の教室』のSTEAMライブラリも積極的に活用しつつ、今後はこうした課内外の活動や教科間との連携にもチャレンジしていきたいです。」(菊池氏)

夏休み直前に行われたSENTAN DAYではボランティアで参加した70名もの社会人と生徒が直接対話するという「ソクラテスマーティング」を実施しました。また、教員が自らの専門分野や興味を掘り下げる授業を行ったり、教科やコースの垣根を取り払い、生徒全員が互いにプレゼンを披露しあったりと、多様性を認めあう活発なコミュニケーションが繰り広げら

れました。

「社会人との対話でホンモノを身近に感じたり、普通科の生徒が自動車科の生徒のマニアックな知識に刺激を受けたり、いろんな接点をつくって視野を広げていく。もちろん専門性を高めるために個別に学んだ方がいい部分もありますが、なるべくいろいろなところを繋げながら、ディプロマポリシーに掲げたような力を育んでいければと思っています。」(阿部校長)

### 今後の課題と期待

もちろんまだ課題も残っています。改革にかけることができる資金は決して潤沢とはいえず、資金繰りは自転車操業である面も否めません。菊池氏の人件費もいくつかの助成金に応募し、採択されたものから賄っているのが現状です。校舎新築に2億円の寄付を募るも、まだ目標額は達成できていません。

とはいえ、阿部校長も菊池氏も、引き続き改革を進めていくことに悲観はしていません。

「社会の一線で活躍する方々が70名も手弁当で参加してくれたように、『今、専北(せんきた)と関わると面白いよね』と思ってもらえる雰囲気になりつつある。今後も『生徒たちに会いたい』『学校や生徒たちから学びたい』という思いでいろいろな



SENTAN DAYの様子(ソクラテスマーティング:少人数、対話型の講演会)

## 教員の変わろうとする姿勢こそ、生徒に『自分の生き方を自分でデザインできる力』を授けることにつながる

阿部校長

人が集まってきてくれるように、大人も一緒に学べる場として魅力ある学校にしていきたいですね。」(阿部校長)

未来への明るい兆しは、今春新課程に入学した生徒の数です。**20年近くも定員が充足できなかった普通科に、定員ほぼ100%となる184名の新入生を迎えました。**この地域は少子化の影響もあってどの高校も倍率が1倍を切っている中、阿部校長が地元の公立中学を回ると、「今は専北の志望者が一番多い」と言われる学校も出てくるまでになったのです。

「新校舎ができるということもポジティブな要因かもしれませんが、オープンスクールでワークショップをやったり、学校案内も教員みんなで対話をしながらゼロベースで自分たちの伝えたいメッセージを考えたり、そういった地道な活動を通じて、『専北っていい感じで変わってきたよね』という認識が受験生に広がりつつあるのは本当に嬉しいですね。」(菊池氏)

**選ばれる学校になることは、教員の改**

**革に対する大きなモチベーションにもなります。**阿部校長は「教員側にこれまで以上に生徒一人ひとりを大切にしたい教育をしなければ」という意識がますます浸透するようになった」といい、早くもその成果として、昨年度の一年生は入学者全員が単位を取って進級し、一人も年度途中の転・退学者がいませんでした。

何か問題を抱えている生徒がいても取り残さず、その子にあった学びを支える。進学や就職の実績、資格取得といった目に見える成果だけではなく、こうした面倒見の良さを受験生の家庭はよく見ているのかもしれない。

学校を変える。日常を回していくのに精一杯の中、それはとても高いハードルのように感じてしまうものですが、「学校改革だ、探究だからって、カッコよくやろうとしなくていい」と阿部校長は強調します。

「これまでのチョーク&トークの授業からほんの一步だけ前に出て、『あ、先生工

夫したな』って生徒に感じさせるようなことをひとつでも増やしていく。教員も学び、変わっていきこうと小さな努力を地道に続けていけば、生徒もそれを見て頑張れるはずですよ。我々もまだ道半ばですが、**教員の変わろうとする姿勢こそ、生徒に『自分の生き方を自分でデザインできる力』を授けることにつながるのではないのでしょうか。**」(阿部校長)

専大北上高校の探究プログラムの授業後に実施したアンケートの中で「自分で国や社会を変えられると思う」と答えた生徒は約半数にのぼり、その割合は日本の高校生の平均の2倍以上でした。新カリキュラムを本格的に導入した今年度、これからの専大北上高校に、ますます期待が膨らみます。



SENTAN DAYでグループワークを実施している様子



### Vol.20 | 専修大学北上高等学校

1947年に設立された、岩手県北上市の私立高校。普通科・商業科・自動車科という3つのコースで多様な進路をサポートし、部活動では運動部・文化部ともに強豪校としても知られる。大胆な学校改革に着手し、今春からは、「自分らしい進路の実現」に向け「探究」に重点を置いた新たなコース「ディープラーニングコース」、「アクティブラーニングコース」を設置。

記事で紹介した  
実証事業の詳細はこちら



事業者名:株式会社Z会

公式サイト:<https://www.zkai.co.jp/>

1人1台端末と様々なEdTechを活用した新しい学び方はこちら



EdTech  
ライブラリー



学校BPR  
学校における働き方改革



未来の教室通信



**未来の教室ってなに?** 経済産業省の有識者会議「『未来の教室』とEdTech研究会」では、新しい学習指導要領にもとづき2020年代に実現したい「今を前提にしない学びの姿」を、「未来の教室ビジョン」にまとめました。その議論の内容は、ウェブサイト「『未来の教室』の目指す姿」をご覧ください。



「未来の教室」通信

発行: 経済産業省 商務・サービスグループサービス政策課 教育産業室 Tel: 03-3580-3922

Facebook: <https://www.facebook.com/METI.learninginnovation/>

公式サイト: <https://www.learning-innovation.go.jp/>

未来の教室 検索

記事の  
定期配信は  
こちら

